

第1章 歴史文化基本構想策定に至る経緯・経過と目的

1. 基本構想策定に至る経過

我が国では、全国各地の少子高齢化が進む中で、中山間地域では人口が減少し、かろうじて維持されてきた神楽や獅子舞などの伝統芸能や、年中行事、郷土食など、地域が独自に育んできた個性と伝統が急速に消滅しようとしている。都市部においても、所有者の高齢化や相続問題等で、町家等の歴史的建造物が急速に消滅し、良好な歴史的風致が失われようとしている。

このような現状のなかで、平成8年(1996)に登録文化財制度を発足させて、近代建築の登録による保護意識向上を図ってきた文化庁は、文化審議会文化財分科会企画調査会に諮って、平成19年(2007)10月「Ⅰ文化財を総合的に把握するための方策」と「Ⅱ社会全体で文化財を継承していくための方策」についての最終報告書をまとめた。

この報告書では、文化財を総合的に把握することにより、周辺環境を含めて保存・活用するために、地方公共団体による「歴史文化基本構想(地域の文化財をその周辺環境も含め総合的に保存・活用していくための基本構想)」の策定を提言している。平成20年度から、文化庁が実施している「文化財総合的把握モデル事業」は、文化財についての調査状況や保存・活用の取組が異なる市町村において、実際に「歴史文化基本構想」を策定する作業を行い、その課題等を探るものである。

折しも日南市では、平成21年(2009)3月に1市2町で合併することが決まっていた。したがって、新市における市域内の文化財を把握するとともに、文化財行政を見直す必要があった。さらに、新市における市民の一体感を醸成するとともに、官民協働のまちづくりを推進するためには、市内各地域の歴史や文化、伝統を調査して、日南市の地域的特性や魅力に対する愛着や誇りに訴えかけることが必要であると考えた。

そこで、平成20年(2008)5月に合併前の旧日南市、南郷町、北郷町の1市2町で、文化庁の文化財総合的把握モデル事業に応募した。その結果、九州沖縄地区では、福岡県太宰府市、鹿児島県奄美(広域)、沖縄県南城市とともに、文化庁から委託事業として委託を受けることとなった。

なお、国土交通省も平成15年(2003)の美しい国づくり政策大綱や、平成16年(2004)の景観緑三法を受けて、歴史的風致の維持向上とそれを活かしたまちづくり推進のために、地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律(歴史まちづくり法)を平成20年(2008)に制定した。平成23年(2011)3月現在では、19市町村が歴史的風致維持向上計画の認定を受けている。

2. 基本構想策定の目的

平成 21 年（2009）3 月の日南市、北郷町、南郷町の合併で新「日南市」が発足した。これまで、異なる自治体住民として生活してきた市民の一体感を、どのように醸成するのが新市の大きな課題である。また、本市の高齢化率はすでに 30%を超えており、市内でも中山間地域をはじめとする市内の少子高齢化は想像以上に厳しい。

このような中であっても、飫肥や油津、酒谷地区等での市民活動に見られるように、地域固有の歴史的資源を活かした地域（まち）づくりに関わる市民も多い。市民活動の舞台や素材は、各地域の歴史を示す町並みや伝統芸能、地域独自の食などであり、地域固有の資源を地域の活性化に取り入れようとする試みは本市にとっての希望である。

しかしながら、地域の歴史や文化、伝統を伝えてきた有形、無形のもものが急速に失われていく現状は、市民によるまちづくりの可能性を下げるだけでなく、地域における個性の喪失にもつながってしまう。そこで、地域固有の資源の価値を市民と行政が共有し、市内外に発信していくことが、新市のまちづくりにとって最も重要なことであると考えられる。地域資源に磨きをかけて、地域に対する誇りを再認識することこそ、「住んで良かった」と感じるまちづくりに必要なことである。なお、このような地域の歴史や文化、伝統を伝えてきた有形、無形のものは、従来の文化財保護法という「文化財」の概念だけでは把握しづらいため、本構想では「文化遺産」と呼称することとしたい。

また、地域の文化遺産について、行政による指定や未指定に関わらず、地区住民が大切な宝として認識しているならば、これまで以上に地区住民の見守りや伝承活動がなされて、次世代に伝えていくことが可能となる。

さらに、歴史文化基本構想は、行政が策定する文化財のマスタープランであり、個性や特徴ある「まちづくり」に関する市施策の大きな柱となることが期待されている。そのため、策定にあたっては、庁内の関係各課のみならず、国や県などの関係機関との連携や協議を踏まえて、行政としての役割を明示したものでなければならない。

歴史文化基本構想等の策定では、急速に失われつつある地域固有の歴史や文化・伝統を示すものの再発見し再評価することで、各地域の市民が自分の住む土地に誇りを持つことを第一の目的とする。次に、地域の歴史や文化、伝統に誇りを持った市民が、地域の個性を生かした、魅力あるまちづくりに取り組むための理論的支柱として活用されることを第二の目的とする。このプロセスには行政と市民が、お互いの役割を認識して協働することが必要であることは言うまでもない。

3. 基本構想策定の体制

構想等の策定にあたっては、日南市歴史文化基本構想等策定委員会とワーキンググループ委員会を立ち上げ、検討を行った。

委員会は、日南市行政（担当主管課：文化生涯学習課、関係部署：総務部、建設部、産業経済部）、宮崎県行政（文化財課、日南土木事務所、南那珂農林振興局）、学術専門家（建築、歴史、文化財、考古）、市民（文化財審議会委員、地域おこし活動関係者）で構成した。

委員会名：日南市歴史文化基本構想等策定委員会

委員名：日南市歴史文化基本構想等策定委員

任期：平成20年10月24日～平成23年3月31日

No.	氏名（専門分野）	役職	期間
1	亀井 伸雄（文化財）	(財)文化財建造津保存技術協会 常務理事（H20-21） 独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所所長（H22）	H20-22
2	西山 徳明（建築）	九州大学大学院教授（H20-21） 北海道大学大学院教授（H22）	H20-22
3	永井 哲雄（歴史学）	宮崎県文書センター	H20-22
4	柳沢 一男（考古学）	富崎大学教授	H20-22
5	安野 喜宏（文化財行政）	日南市教育長	H20-22
6	田村 利和（文化財行政）	日南市教育委員会生涯学習課長（H20）	H20
7	中村 武美（文化財行政）	日南市教育委員会文化生涯学習課長（H21）	H21
8	岡本 武憲（文化財行政）	日南市教育委員会文化生涯学習課長（H22）	H22
9	本田 宏二（文化財行政）	南郷町教育委員会教育課長（H20）	H20
10	村田 豊年（文化財行政）	北郷町教育委員会教育課長（H20）	H20
11	長鶴 浅彦（行政全般）	日南市総務部長（H21-22）	H21-22
12	野邊 泰弘（都市計画行政）	日南市建設課長（H20） 日南市建設部長（H21-22）	H20-22
13	田原 義人（農業振興行政）	日南市農林水産課長（H20） 日南市産業経済部長（H21-22）	H20-22
14	清野 勉（文化財行政）	宮崎県教育庁文化財課長	H20-22
15	児玉 勝美（都市計画行政）	日南土木事務所長（H20-21）	H20-21
16	前田 安德（都市計画行政）	日南土木事務所長（H22）	H22
17	池田 典昭（農林振興行政）	南那珂農林振興局 次長（H20-21）	H20-21
18	児玉 和裕（農林振興行政）	南那珂農林振興局 次長（H22）	H22
19	日高 茂信（住民）	やっちみろかい酒谷代表	H20-22
20	中島 康俊（住民）	飫肥茶市茶座	H20-22
21	長友 禎治（住民）	日南市文化財保存調査委員（H20） 日南市文化財審議会委員（H21-22）	H20-22
22	中島 淳祐（住民）	日南市文化財保存調査委員（H20） 日南市文化財審議会委員（H21-22）	H20-22
23	渡邊 眞一郎（住民）	油津みなと街づくり委員会	H20-22

ワーキンググループは、日南市行政（担当主管課：文化生涯学習課、関係部署：建設課、まちづくり推進室、宮崎県行政（文化財課）、市民（文化財審議委員、地域おこし活動関係催者）で構成した。

委員会名：日南市歴史文化基本構想等策定ワーキンググループ

委員名：日南市歴史文化基本構想等策定ワーキンググループ委員

任期：平成20年11月14日～平成23年3月31日

No.	氏名(専門分野)	所 属	期 間
1	若山 浩章(歴史学)	宮崎県教育庁文化財課	H20-22
2	岡本 武憲(文化財全般)	日南市生涯学習課(H20) 日南市文化生涯学習課(H21-22)	H20-22
3	徳井 忠次(文化財全般)	日南市文化生涯学習課	H22
4	酒井 康光(行政)	日南市建設課(H20) 日南市建設部建設課(H21-22)	H20-22
5	畑田 英樹(行政)	日南市総務部まちづくり推進室	H22
6	長友 禎治(住民)	日南市文化財保存調査委員の会(H20) 日南市文化財審議会(H21-22)	H20-22
7	黒田 泰裕(観光)	県南観光ネットワーク	H20-22
8	細田 勝(まちづくり)	油津みなと街づくり委員会	H20-22
9	井野畑善順(まちづくり)	NIC21	H20-22
10	矢野 和之(コンサルタント)	(株)文化財保存計画協会	H20
11	平原 英樹(行政)	北郷町教育課(H20) 日南市文化生涯学習課(H21-22)	H20-22
12	加藤 智之(行政)	南郷町教育課(H20)	H20
13	太田 理香(行政)	日南市生涯学習課(H20) 日南市文化生涯学習課(H21-22)	H20-22



ワーキンググループ



合同委員会



策定委員会

4. 基本構想策定の経過

(1) 策定の手順

歴史文化基本構想策定にあたっては、基本作業として、日南市の自然環境、社会環境と歴史的特性把握のための各種調査を実施した。特に、歴史的特性の把握については、これまでの調査成果（文献資料等収集）と地域の歴史や文化、伝統を示すもの（文化遺産）の悉皆調査及び個別調査を実施した。

策定作業は、調査成果を踏まえて、歴史文化基本構想等策定ワーキンググループと事務局（日南市教育委員会文化生涯学習課とコンサルタント）がデータベースの作成、関連文化財群の把握、歴史文化保存活用区域の設定などの構想案を作成し、歴史文化基本構想等策定委員会で歴史まちづくりの推進体制、方策の検討を行った。

ワーキンググループ委員会及び策定委員会は年に4回ずつ（最終年度は3回）開催したが、相互の意思疎通を図るため、年1回は合同委員会とした。

(2) 事業経過と実施事項

平成20年度は、市広報、ホームページ、文化財総合的把握モデル事業説明会（飫肥地区）及び飫肥まちづくり意見交換会実施により文化財総合的把握モデル事業周知を図り、同時に意見募集を行った。また、悉皆調査として石造物調査や寺社建築調査等基礎的な文化遺産把握調査を実施した。これらの調査結果や文献等を基に、既存の指定文化財一覧表に、指定以外の文化遺産を追記し、新たに一覧表（文化遺産データベース）の作成と現況資料の整理分類を行った。

平成21年度は、平成20年度から継続して悉皆調査を行い、文化遺産の把握（既存文化財調査のまとめ、公文書調査）、まちあるき、中世城郭群調査を行って、歴史・地理的特性の把握、日南市の特性分析、関連文化財群設定の方針、保存活用区域の定義を検討した。また、本市と同様にモデル事業に取り組んでいる自治体を招き、シンポジウムでの情報交換及び市民への周知を行った。

平成22年度は、21年度に引き続き文書センター調査、ワークショップや高齢者の聞き取りを実施した。これまでに蓄積された調査結果を元に、文化遺産の抽出を進め、歴史的・地誌的特性に基づき総合テーマを再検討し、関連文化財群の設定、保存活用区域の設定を図った。さらに、関連文化財群、保存活用区域の保存活用検討を行い、日南市歴史文化基本構想報告書を刊行した。

事業別の実施内容については次のとおりである。

①ワーキンググループ委員会及び策定委員会

(平成20年度)

平成20年10月24日	第1回日南市歴史文化基本構想等策定委員会
平成20年11月14日	第1回日南市歴史文化基本構想等策定ワーキンググループ委員会
平成21年1月14日	第2回日南市歴史文化基本構想等策定委員会・ワーキンググループ合同委員会
平成21年2月9日	第3回日南市歴史文化基本構想等策定委員会・ワーキンググループ合同委員会
平成21年3月11日	第4回日南市歴史文化基本構想等策定ワーキンググループ委員会
平成21年3月16日	第4回日南市歴史文化基本構想等策定委員会

(平成21年度)

平成21年7月15日	第1回日南市歴史文化基本構想等策定ワーキンググループ委員会
平成21年7月22日	第1回日南市歴史文化基本構想等策定委員会
平成21年10月22日	第2回日南市歴史文化基本構想等策定ワーキンググループ委員会
平成21年10月29日	第2回日南市歴史文化基本構想等策定委員会
平成21年12月17日	第3回日南市歴史文化基本構想等策定委員会・ワーキンググループ合同委員会
平成22年2月5日	第4回日南市歴史文化基本構想等策定ワーキンググループ委員会
平成22年3月15日	第4回日南市歴史文化基本構想等策定委員会

(平成22年度)

平成22年8月23日	第1回日南市歴史文化基本構想等策定ワーキンググループ委員会
平成22年8月31日	第1回日南市歴史文化基本構想等策定委員会
平成22年11月9日	第2回日南市歴史文化基本構想等策定ワーキンググループ委員会
平成22年11月24日	第2回日南市歴史文化基本構想等策定委員会
平成23年2月25日	第3回日南市歴史文化基本構想等策定委員会・ワーキンググループ合同委員会

② 調 査

●寺社建築調査

日南市内では、各地域の神社において神楽や獅子舞が行われている。こうした神社をはじめとして、寺社は、伝統芸能を継承する場であり、地域のコミュニティの中心ともなってきた。しかしながら、寺社建築（市内の寺院建築は明治期の廃仏毀釈でほとんど取り壊されていることから、神社を中心に行った）については、ほとんど調査していなかったことから、文化財としての評価がなされてこなかった。これら飢肥を中心とした寺社建築の様式やその文化財的価値が判明すれば、神社を神楽や獅子舞などの伝統芸能とともに、飢肥城下町と一体的に評価することが可能となると考え、日南市内寺社建築調査を実施した。

【実施内容】

事業実施者：結建築研究所 代表 池田賢一郎

実施時期：平成21年1月8日～平成21年3月23日

調査対象：五百禪神社・田ノ上八幡神社・岩崎稻荷神社・願成就寺（以上飢肥地区）・酒谷神社（酒谷地区）・大宮神社（東郷地区）

実施結果：『日南市内寺社建築調査報告書—酒谷川沿いの建造物—』として刊行

●長持寺跡墓地測量

長持寺は、飢肥藩三大寺院の一つで、天文11年(1542)には後奈良天皇の勅願寺ともなった寺院である。明治5年(1872)には廃寺となったが、その墓地には、伊東図書家、伊東主水家関係の藩主伊東塔とも呼ばれる独特な形態の墓石が多く残されている。以前から、その学術的価値が認められていながら、墓地全体の正確な図面もなかったため、今回、測量するとともに、墓碑銘の調査も併せて行った。

飢肥城や城下町だけでなく、伊東家関係の個人を特定することができる「墓」を調査することにより、飢肥の魅力を総合的に把握するための基礎作業として、長持寺跡墓地測量を実施した。

【実施内容】

事業実施者：有限会社仁礼

実施時期：平成21年1月8日～平成21年3月23日

実施対象：長持寺跡墓地（伊東家関係）

実施結果：測量図



長持寺跡墓地

●石造物調査

日南市は、旧飢肥藩の領域であったが、藩政時代の文献資料が極めて少ない状況にある。しかしながら、墓碑や記念碑等の石造物は数多く残されており、有力な歴史資料となっている。これまでに、郷土史家の吉田常政による調査はあったが、体系的なものではなかった。

そこで、市内の石造物でもとりわけ、長持寺跡墓地及び旧報恩寺墓地については、飢肥藩の歴史資料として重要であるだけでなく、墓石の変遷や飢肥藩における江戸期の葬送儀礼を考える上での基礎資料とすることが期待されたため、市内全域の調査を行うとともに、これらの墓地を中心に日南市内石造物調査を実施した。

【実施内容】

事業実施者：武田幸雄・村川勝也・鈴木常磐・金井一光

実施時期：平成21年1月8日～平成21年3月23日

実施対象：長持寺跡墓地（伊東家関係）・旧報恩寺墓地・市内石造物

実施結果：長持寺跡墓地（伊東家関係） 200基

旧報恩寺墓地 118基

市内石造物 120基



旧報恩寺墓地

●中世城郭群調査

日南市には伊東氏と島津氏の抗争に関わる中世城郭や砦の他、在地豪族の城が数多く分布する。これらは地域の歴史において非常に大きな意味を持つものであるにもかかわらず、これまでに体系的に調査が行われたことがなく、その構造や縄張り、遺構の状況などについてはほとんどわかっていなかった。今回、代表的な城郭について現地踏査を行い、縄張り図の作成と遺構の状況に関する所見の取りまとめを行った。

【実施内容】

事業実施者：鶴嶋俊彦、文化財保存計画協会

実施時期：平成 21 年 12 月 1 日～平成 22 年 3 月 14 日

調査対象：日南市内に所在する中世城郭 24 城

実施結果：縄張り図の作成（24 点）、

調査報告書作成（『日南市の中世城郭調査』）



酒谷城縄張り図

●宮崎県文書センター所蔵文書調査

宮崎県文書センターには、明治期以降の日南市関係行政文書も多く保管されているが、その実態は分かっていなかった。今回のモデル事業では、日南市の近代史及び現代史を総合的に把握するために、宮崎県文書センターの調査が欠かせないと判断した。これらをもとに、日南市の歴史的変遷を把握するとともに、地域特性を検討し、関連文化財群の意味づけを明確なものにするため、調査を実施した。

【実施内容】

事業実施者：永井哲雄、清水正恵、河野悠子、吉田琢磨

実施時期：平成 22 年 1 月 6 日～平成 22 年 3 月 31 日

（予備調査については平成 21 年 7 月より実施）

調査対象：宮崎県文書センター日南関係資料

実施結果：リストの作成、記載事項の原稿作成、写真撮影



耕地整理組合関係文書
（宮崎県文書センター所蔵）

③ワークショップ・聞き取り調査

●酒谷地区ワークショップ

地域の文化遺産について、地元の人々が目を向けることにより、その保護・活用や、地域の誇りの創出への一助とする。また、指定文化財以外の身近な文化遺産にも目を向け、その価値を再発見するとともに、地域住民の話を聞く機会とすることを目的に実施した。

また、平成22年度には、別事業（景観計画策定事業）において、景観まちづくりワークショップを実施し、その結果を本事業に反映させた。

【実施内容】

・酒谷地区ワークショップ ～日南のお宝発見まちあるき～

参加者：地域づくり団体、地区住民、日南市文化生涯学習課、文化財保存計画協会

実施日：平成21年11月23日

実施内容：酒谷地区の歴史についての概要説明
グループ毎のまちあるき
まちあるき結果の発表



酒谷地区まちあるき

・酒谷地区景観計画 景観まちづくりワークショップ

～『まちの宝』を再発見～

参加者：地区住民、地域づくり団体、まちづくり市民協議会、建築士会、日南市建設課、日南市文化生涯学習課、パシフィックコンサルタンツ

実施日：平成22年12月18日

実施内容：これまでの取り組み説明・ガイダンス
グループ毎の作業（「地区の宝」発見）
作業結果発表

●飢肥地区ワークショップ

地域景観づくり緊急支援事業により飢肥地区で実施したワークショップにおいて、飢肥地区高齢者からの回想法による聞き取り、班ごとのまちあるき、これらの成果発表に出席した。回想法の手法により、地元高齢者から多くの話を聞くことができたほか、地元以外の参加者が一緒にまちあるきや聞き取りをすることで、新たな視点を得ることができた。高齢者の話は可能な限り早急に記録することが必要であることを再確認した。

また、酒谷地区同様、景観計画策定事業において、景観まちづくりワークショップを実施し、その結果を本事業に反映させた。



飢肥地区ワークショップ

・地域景観づくり緊急支援事業ワークショップ ～地域の歴史文化資源の再認識・再点検～

参加者：地区住民、宮崎大学学生、建築士会、日南市建設課、日南市文化生涯学習課、
アトリエ74

実施日：平成21年11月29日、12月6日、13日

実施内容：まちあるき

高齢者からの聞き取り

・飫肥地区景観計画 景観まちづくりワークショップ ～『まちの宝』を再発見～

参加者：地区住民、日南市観光ボランティアの会、日南郷土史会、飫肥楽市楽座、
飫肥城下町保存会、建築士会、日南市建設課、日南市文化生涯学習課、
パシフィックコンサルタンツ

実施日：平成22年12月18日

実施内容：これまでの取り組み説明・ガイダンス

まちあるき

まとめ作業

まちあるき結果発表



飫肥地区ワークショップ

●榎原地区ワークショップ

地域の文化遺産について、地元の人々が目を向けることにより、その保護・活用や、地域の誇りの創出への一助とする。また、指定文化財以外の身近な文化遺産にも目を向け、その価値を再発見するとともに、地域住民の話を聞く機会とすることを目的に実施した。調査対象範囲を榎原神社門前町である上講と明確に限定したために、参加者の記憶も鮮明で、近代の榎原神社門前町の状況を明確に再現記録できた。

【実施内容】

参加者：地区住民、榎原の民話と史跡を語る会、
日南市文化生涯学習課、
文化財保存計画協会

実施日：平成22年10月3日

実施内容：榎原地区の歴史についての概要説明

榎原神社収蔵品の見学

榎原神社及び参道まちあるき

高齢者の記憶に基づく町並みの由緒・変遷の記録作成



榎原地区ワークショップ

●北郷地区（宿野）ワークショップ

他地区同様、地域の文化遺産に地区住民が目を向ける機会とする。このことにより、地域の宝物の再発見を行い、それらの今後の保護活用に資することにもなると考えた。また、

高齢者にも多く集ってもらい、その聞き取り調査を行った。

その結果、地元以外ではあまり知られていない文化遺産の掘り起こしや、潮嶽神社との関わりなどについて記録することができた。ただし、集まれる時間に限りがあったため、さらに聞き取り作業を進める必要がある。

【実施内容】

参加者：地区住民、日南市文化生涯学習課、
文化財保存計画協会

実施日：平成22年11月19日

実施内容：北河内の歴史についての概要説明
潮嶽神社宮司の話
潮嶽神社及び宿野地区まちあるき
高齢者からの聞き取り



北郷地区（宿野）ワークショップ

④シンポジウム

日南市文化財総合的把握モデル事業の市民への周知と、文化遺産に対する興味を深め、他地域の事例と比較しながら、地元日南市に対する理解を深めることを目的として、シンポジウムを開催した。開催時に配布したアンケートの回答では、地域の見方が変わった、多くのことが学べたとの返答が9割に上ったものの、予備知識がないと難しいとの意見もあり、市民に対する情報提供不足も課題として残った。

【実施内容】

基調講演：西山徳明委員

事例発表：篠山市、太宰府市、奄美（広域）、南城市、日南市

実施日：平成22年3月23日

講演内容：文化遺産を活かしたまちづくり

発表内容：文化財総合的モデル事業実施の他地域の
状況報告
日南の文化遺産を活かしたまちづくりに
ついて

意識調査：アンケート



シンポジウム
「文化遺産を活かしたまちづくり」

⑤既往資料の整理

これまでに刊行された日南関係の資料は多岐にわたる。『日向地誌』『日向地名録』等近代に出された書籍に記載された文化遺産の抽出を行った。また、これまで宮崎県や日南市で刊行してきた文化財関係図書（町並み関係、文化財調査資料集、埋蔵文化財報告書に加えて、郷土史家等による人物、郷土史など）を整理し、参考資料とした。（巻末資料に一覧を掲載）

5. 上位・関連計画及び関係機関とのかかわり

(1) 上位計画・関連計画

①日南市総合計画における位置づけ

平成21年(2009)3月の合併で誕生した日南市では、平成22年(2010)3月に、市の最上位計画として「日南市総合計画」(以下、総合計画という)を策定した。この計画では、将来像として「緑と黒潮が育む 産業・文化・交流都市」を掲げ、「生まれてよかった、住んでよかった。また来たい、住んでみたい、住み続けたい。」と実感できるまちを目指している。そのためには、まちづくりの目標を「みんなでつくりわちあう まち」として、協働型社会の実現が不可欠である、としている。

総合計画では、[将来像－基本理念－分野別目標像－基本方針]を施策の体系としている。このうち、基本方針の中では「地域の特性を生かした農林水産業の振興」「地域資源を生かした観光振興と交流の促進」「景観に配慮した美しいまちの創出」「歴史的資源を生かしたまちづくり」など、各分野において、地域の特性や地域資源、地域固有の景観、歴史的資源など、地域の特色や個性を重視した施策を展開することが、まちづくりの基本方針となっている。

このうち、歴史文化基本構想に直接関係する項目は、「分野別目標像5 ゆたかな心を育み未来へ継承するまち」の、「基本方針2 歴史的資源を生かしたまちづくり」に、『市内に多数存在するその他の指定文化財、未指定文化財についても、総合的な調査による歴史文化基本構想及び保存活用計画の策定により、本市の歴史や文化、伝統文化を生かしたまちづくりの推進が望まれます。そのためには、歴史的資源の積極的な調査と情報の公開を行い、市民の誰もが郷土の歴史を知ることにより、郷土に愛着と誇りを持ち、地域の個性を次世代へ継承していくことが重要です。』と記載されている。

②日南市美しいまちづくり景観基本条例との関係

平成18年(2006)に旧日南市で制定され新市に引き継がれた。本条例の前文では「日南の魅力あるまちの景観(風景)を守り、育て、更に新しい活力ある日南らしさを創出し、住まい、働き、憩うためのまちを、個性豊かで、暮らしやすく、快適なものにしたい」と願い、第1条の目的で「市、市民及び事業者等が連携、協働し、日南の魅力ある景観の保護、育成及び創出に努め、もって美しいまちづくりに寄与すること」としている。

本条例に基づく日南市景観形成基本方針では、文化遺産に関連して、油津や飫肥地区等で次のような方針が示されている

【区域1】港町油津・景観形成地域

1. 堀川運河を中心とした港町としての重層的で豊かな歴史的資産を受け継ぎ、その保存、活用による港町景観の再生を図っていく。
2. 歴史的景観を活かしたまちづくりを推進することにより、魅力と活気あふれる町並みの形成を図る。

3. (略)

【区域2】城下町飫肥・景観形成地域

1. 飫肥城と城下町の歴史的資産を受け継いでいく。
2. 伝統的建造物群保存地区内については、保存計画に基づく歴史的景観の保存と活用を図る。
3. 飫肥城下町の歴史的景観とともに、酒谷川と周囲の山々も含めた眺望景観を保全する。

【区域5】自然環境・景観形成地域

1. 川、山、田園などの豊かな自然景観と、その中に点在するゆとりある集落景観を保全する。
2. 文化的景観としての棚田や飫肥杉人工美林などを保全する。 ※酒谷地区景観計画

③日南市都市計画マスタープラン

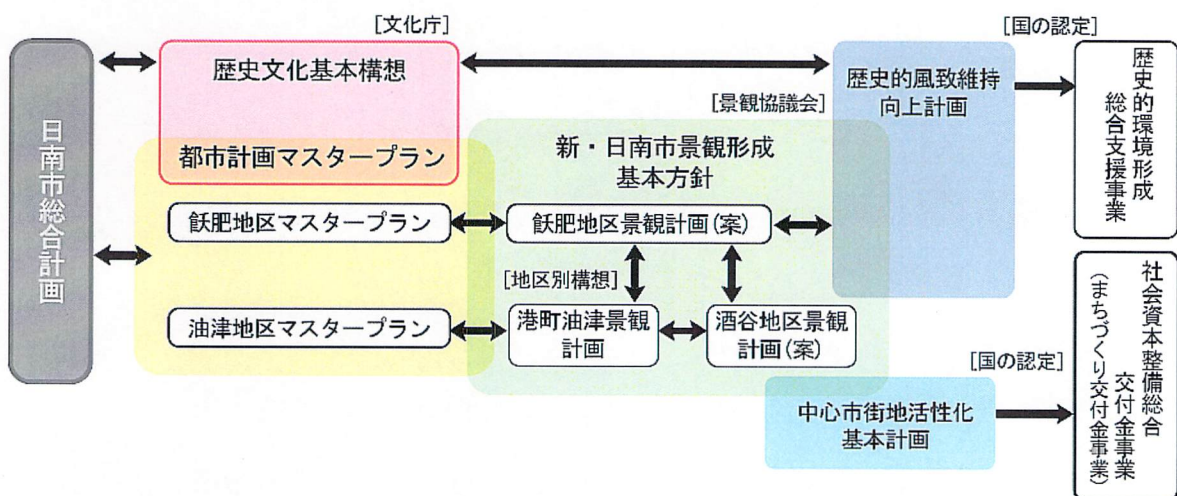
都市計画法に基づく都市計画区域内のマスタープランとして、平成21年度から策定を開始した。飫肥や油津の市街地においては、本構想とも関わる部分が大きいため、策定にあたっては十分な調整が必要となる。

④日南市中心市街地活性化基本計画

平成21年度から策定を始めており、現在も国に申請するための作業中である。この計画では、キャッチフレーズを「港と運河のまち油津 今と昔を丸かじり」、将来像を「みんなが、生き生きと暮らせ、すごせるまち」「楽しく歩け、訪ねてみたくなる交流のまち」としており、観光推進ゾーンとして、堀川運河と油津の町並みの歴史的資源を活用することが盛り込まれている。

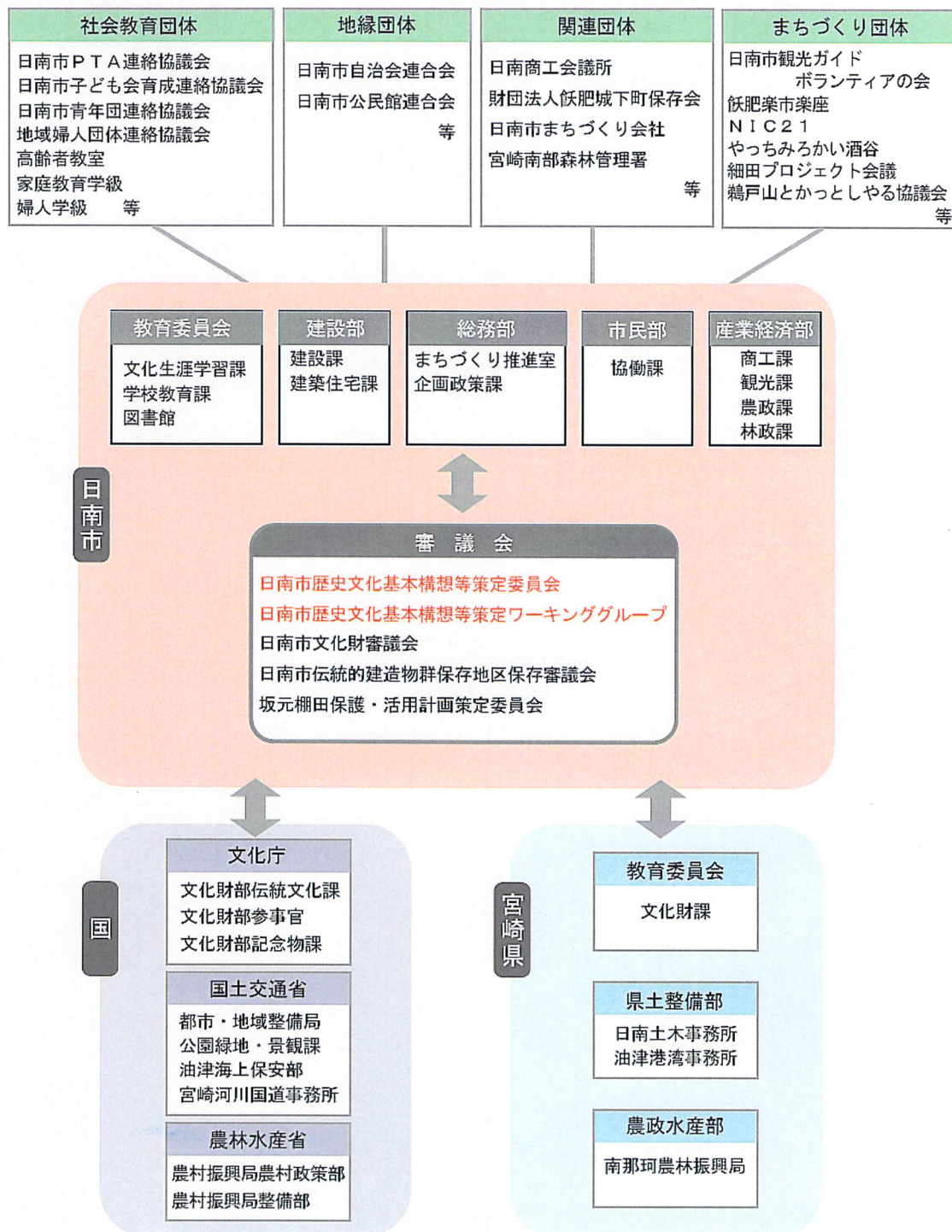
⑤日南市歴史的風致維持向上計画

地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律に基づき、平成22年度から準備を開始した。基本的には、歴史文化基本構想の策定を終えた後に、事業計画の一部として計画を策定する予定である。とりわけ、重要伝統的建造物群保存地区である飫肥を中心に計画を策定する。



日南市歴史文化基本構想及び関連計画相関図

(2) 関係機関との連携



関係機関連携図